

学校法人エイシンカレッジ
新潟こども保育カレッジ
令和5年度 事業報告書

1 基本方針

(1) 学校運営方針

- ・学生個々が自己実現を達成するための支援・指導を行い、自主性・主体性を育むとともに、社会において周囲への他者理解をもって、連携・調和を図り、永く活躍できる人材を育成する。
- ・保育・幼児教育に関する幅広い専門知識とより高い保育技術を習得するとともに、「心育」を理念とし、「人を育む人」としての心で、豊かな人間性と専門性の高い保育者を育成する。
- ・保育者を目指す心掛けとし、こどもへの深い愛情を基に、こどもが生涯を生きる力を養うために、個々の姿と内面にある思いを理解するために心を寄せることができる保育者の心を育む。

(2) 人材育成

- ・こどもへの愛情と保育への信念を持ち、その成長に尽力できる保育者の育成
- ・社会における保育者のニーズと役割を理解し、保育及び子育て支援に臨む保育者の育成
- ・自己、他者理解を深め、共生社会において互いに調和し合える関係づくりに努められる保育者の育成
- ・主体的かつ能動的に、物事に取り組むことができる社会人の育成
- ・礼節、礼儀及び、倫理観を身に付けた社会人の育成

2 主な事業内容

(1) 教育活動

- ・こども保育科、幼稚園教諭専攻科の2学科共、クラス担任制により細やかな教育的指導が実現できた。
- ・授業運営、短大学修、行事運営、就職支援、生活指導等については、各学年担当他、教職員が組織的に連携を図り、学生指導の多様化と充実に努めた。

① 主な教育実績

- ・保育・福祉・心理各分野において、現場経験のある専門教員の充実で、専門性の高い授業を実現した。
- ・専門性の高い知識と技術の習得のため、学校と保育現場の職員が連携し、教育プログラムを共有、相互的に補完し合うことで、実習・就職後の実践力育成に取り組んでいる。
- ・系列園との連携を強化した。園児の訪問（屋上菜園での芋ほり体験）や本校の学生の卒業発表会を系列園で行うなど新たな試みを行った。

② 授業運営

- ・視聴覚機器や ICT の活用により、学生が能動的に学ぶ授業環境及び授業資料の提供を行い、学生に有益な授業づくりを図っている。
- ・受動的な形態から、演習課題・製作・発表・グループワーク等、学生が意欲を高め能動的に取り組む形態へ授業の転換を図っている。

③ 就職支援

- ・1年次の早期より職業理解や目的意識、社会的ニーズへの理解を持たせるためのキャリア形成支援のためのプログラムで、キャリア教育を実施した。
- ・礼節、礼儀、マナー等を習得し、社会人及び保育者として、求められる人材を目指すべく、外部講師を招致しての各種教育活動を実現した。
- ・保育園及びこども園の他、福祉施設等、学生の就職希望先の多様化に対応し、その実現に向けての指導・支援とし、授業他、個別面談、求人情報公開、園見学やインターンシップ活動の支援などを積極的に実施した。

④ 生活指導

- ・集団生活におけるルールやマナーを習得し、将来的に社会人として規律を守り、周囲と調和を図ることができるよう指導に当たっている。
- ・社会人として必須である危機管理能力や自己管理能力を備えるために、学生自身が感染予防の意義を深く理解し、衛生、安全な環境整備と行動をとることができるよう、日々の指導を行っている。

(3) 学生募集活動

- ・2年の保育士課程修了後の幼稚園教諭専攻科進学については、募集の入り口とし、現代社会における、保育教育の一元化の現状と共に、保育士、幼稚園教諭免許取得の「保育教諭」へのニーズ向上について、まず理解が得られるよう指導を行っている。
- ・次年度入学生、保護者対象の短大併修説明会を、対面及び配信での説明会を実施。入学前より、今後の「保育教諭」のニーズの定着と併修の意義についての情報共有を行った。

(4) その他

- ・地域に貢献するボランティア活動として、近隣の小学校で毎週1回学習支援ボランティア(絵本読み聞かせボランティア)活動を継続している。
- ・新入生の保育実習への不安感を払拭し、前向きに臨むことができるよう、系列こども園と連携を図り、「実習前学習」として前期授業終了後に、こども園半日見学実習を実施した。
- ・従来の検定受験のほか、おもちゃインストラクター講座、あそび発達支援サポーター講座、ピアヘルパー検定の講座受講、検定受験といった取得資格増を図った。